

「香肌小学校 再編活性化 意見聴取会」 議事録（要点筆記）

日時：令和8年2月17日（火）19:00～20:35

場所：香肌小学校 ランチルーム

出席者：

【地域住民・保護者・学校関係者】 24人

【教育委員会】教育長 中田雅喜

事務局長 若山幸則

事務局次長 熊野佳幸

西部教育事務所長 北川顕宏

教育総務課長 西浦有一

給食管理課長 瀬古英司

西部教育事務所 担当監 小森文人

教育総務課 学校活性化推進室長 北畠和幸

教育総務課 学校活性化推進室主幹 清水尚美

教育総務課 学校活性化推進室主任 地主博一

挨拶：教育長

日頃は、学校教育にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

先生方、子どもたちに寄り添っていただいております。もし子どもたちが失敗しても、地域・先生がスクラムを組んで対応していただいている香肌小学校は素晴らしい。

「あなたの夢を応援します」という事業を市で行っている。ZOZOTOWN 前澤さんのふるさと納税を原資として、子どもたちの夢を応援できる事業を行っている。香肌小学校の子ども「海釣りをしたことがないので、海釣りをしたい」という夢に応えた。海が豊かになるためには山が豊かにならないといけない、という課題を見つけ、菅島との交流が始まった。児童は発表会では予期せぬ質問に対してきちんと自分の経験から話ができる。香肌小学校は地域や保護者のご理解、ご協力のもと、そのような教育ができています。

公民館長には学校教育へご尽力いただいていることを心より感謝申し上げます。

香肌小学校の教育は、これからのめざす教育の形「自分で課題を見つけて、解決していく」教育が進められている。全国学力・学習状況調査も高い成績を収めている。

子どもたちが学びを経験して語れることは大きい。今後とも、教育委員会としてそういった教育をしっかり支援していきたい。

今日は今まで議論してきた内容の方向性を示す。ご意見をいただき、よりバージョンアップしていきたい。教育委員会定例会で最終検討するが、「子ども」を主語に語りたい。今日は限られた時間の中で忌憚のないご意見をお願いしたい。

職員自己紹介

資料説明：学校活性化推進室長

資料『松阪市立香肌小学校 再編活性化に関わる意見聴取会』

(2ページ)

・全国的に児童生徒数が減少していることから、平成27年1月に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」(文部科学省)が策定された。

・松阪市教育委員会では、令和2年度に検討委員会を立ち上げ、外部の委員による検討を重ね、令和5年3月に「松阪市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」を策定した。

(3ページ)

・松阪市では、4人グループ5つで議論を深められるなどの理由から、「最低限確保したい学校規模」を小学校で6学級以上、中学校で3学級以上、1学級20人程度とした。

・「松阪市として最低限確保したい学校規模」を下回る市内19小学校、2中学校が対象校となる。

・香肌小学校が第1期、宮前小学校が第2期、飯高中学校が第3期に該当している。令和5年度から香肌小学校で再編活性化の検討を開始している。

・「香肌小学校の未来を考える会」を開催して、地域、保護者、学校運営協議会、教職員の意見を聞かせていただいた。

資料説明：学校長

・資料7ページ「香肌小学校で進める教育活動」

資料説明：学校活性化推進室長

・「今後、再編活性化の検討を再開する際は～」の文言を添えることをご理解いただきたい。

・子どもたちのより良い教育環境についてご意見をいただきたい。

質疑応答

参加者

再編活性化を見送る方向に感謝申し上げます。

令和3年度、長女が12人目の児童として香肌小に来了。●●市の1,000人規模の学校に通っていた。コロナ禍で家と学校との往復のみ。担任の先生とは会えるが、校長先生もモニター越しにしか見ない数か月だった。

「子どもはいつ将来の夢をもつのだろう、人との触れ合いがない中でどうやって将来何になりたいとか、人の役に立ちたいかを思うのだろう」とすごく考えるようになった。長野県や他地域も視察や体験に行った。子どもだけにするのか、親子とも移住するのか、探している中で香肌小学校に出会った。

学校の活動、地域とのふれあい、先生方のフォローをみて、香肌小学校を選んで来た。

今日に向けて夫婦で話し合いをした。

香肌小学校を残すことを子どもたちのためだけ、保護者のためだけ見たら、松阪市としてはコストがかかる。残すという方向に感謝しつつ、香肌小学校の教育を多くの人に知ってほしい。

教育が多様化している中で、香肌小学校の教育は先駆的。香肌小学校は非認知能力、常に自分が主体的にリーダーとして動かないといけないこと、他学年との触れ合い、学年が上がっていけば下の子の面倒を見るのを当たり前のようにしている。人数が少ないからと言って社会性が育たないかと言えばそうではない。会社でも同期・同級生よりも上司や部下との関わりの方が多い。子どもが社会に出るために

必要な、いろいろな世代、いろいろな人と関わっていくことが、香肌小学校では子どものころから身につけられる。

地域の皆さんには温かい見守りをしてくださり、感謝している。引っ越してきて数か月の時に娘が「地域の人に愛されていて、どうしよう」と言っていた。子どもは地域に育ててもらっていて、香肌小学校は家族のよう。

参加者

長男が●●県の学校でなじめなかった。「学校に行きたくない」と言っていた。日本全国いろいろ調べる中で、ブログで香肌小学校を知って香肌小学校で体験をした。

長男が体験入学をして「この学校に通いたい」と自分で言った。仕事に2時間かけて通勤しているが、子どもがこの学校に行きたいのであれば全力で支えていく。

子どもは想像以上に学校になじめた。先生、地域の方、保護者の方々と仲良く過ごすことができている。感謝している。

教育委員会としては学校の運営として厳しいところがあると思うが、学校の先生が頑張っていたいてる。長男も次男も毎朝元気よく「行ってきます」と言って通っている。そういう状況を見ていると来てよかったと思っている。

母親も「仲間と話ができる、子どもが「〇〇だから今日は学校に行きたくない」と自分の意見が言えるようになったことが嬉しい」と言っていた。

教育長

ここを残すという方向性で意見を聴いて教育委員会で決定するが、今話を聞いてその方向性にしてよかったと思った。

自分の夢を自分の言葉で語れるということが、松阪市教育委員会の大きな目標の一つ。そういう学力をつけていきたい、そういう活動をしていきたい。

不登校だった子が「ここにきてよかった」と言ってもらえることは、とても大きいこと。

教育委員会として経済効率だけを追求すれば、残すという選択肢はないのかもしれない。しかしそうではない。

「私の夢を応援します」事業で産業振興センターで自らの言葉で語っている、質問に対し堂々と答えることができる、香肌小学校の教育はある部分成功だと思うが、まだ課題もある。先生方が本当によくやってくれている。「通勤するのに時間がかかるが、子どもの挨拶と笑顔を見ると、そういったことは吹き飛んで、この学校に残りたい」と言われた先生もあった。

香肌小学校が次のステージへ上がるとしたら、子どもが自らの夢を自らの言葉で語ることから、自分だけではなく、友達や地域に視野を広げることを考えてもらえればと思う。

以前、県の教育長が香肌小学校を視察しにみえた。「すごいな」と言ってみえて、いろいろな報道機関も取材にみえた。一番よかったのが、子どもの笑顔が教育の中心にあること。教育活動の中で楽しかった面白かったと語れる子どもたちはすばらしい。

欠学年が生じたときに養護教諭が配置できないので市独自で配置した。今後は教育活動が維持できるようにしっかり支援をしていく。

参加者

別の角度で話したい。ここに来て、子どもが変わったことはもちろんだが、私自身の人生が変わった。子どもの不登校でここに来た。子どもは生きていく上での成長もあるが、ここに来たことによる成長もある。

子どもから「お母さんの夢はなに？」と言われた。子どもが不登校になって、自分のことに目を向けることがなかった。自分と向き合うきっかけをもらった。

ここに来て私の夢が見つかって、この1、2年で夢にむかってスタートできた。自分の夢を叶える姿を子どもに見せたいと思った。夢は持つものではなくて叶えるもの。子どものためと思って移住したことが、それを通してよい副次的効果もあったことをお伝えしたい。

教育長

様々な保護者と話をする。親が悩む。その答えは先ほどおっしゃった「自分が夢を叶えよう」ということだと思う。

特に障がい児の保護者の方が「私のせいで」「私がこの子のために、生きている間は」とすごく重荷を抱えている。

言われたように、自分の夢が見えてきたら、いろいろなことが見えてくるのかな。ありがとうございました。

参加者

移住のきっかけは、前の学校に通わせて「このままでいいか？」と思ったこと。大人がコントロールしやすいロボットを作っているような感覚だった。

移住先を調べたとき、支援金があるところを探していた。松阪市はこの時は支援金がなかった。その中で山村留学に体験に来た。地域も先生方もすばらしい。仕事も家も取っ払って来た。

こちらに来てから子どもが主体的になってきた。移住してきてよかった。

一番の問題は家。家を見つけるのに苦労した。行政の方も支援をしていただきたい。空き家はたくさんある。もっと宣伝して、家の選択肢を増やしてもらったら、来ていただける方が増えるかもしれない。

教育長

教育としての支援策は、子どもの教育的な活動をどう支援していくか。バスを用意する、ジビエ料理を食べるためにフランス料理のシェフを呼べるよう用意する、こういったことは教育委員会の仕事。

地域の活動としては松阪市全体の問題。教育長としても関係機関にお伝えさせていただく。

教育でも3つ教員住宅をもっている。もし空いていたら使っていただいてもよい。ただ、修理する必要がある部分もあるので、関係部局と調整していく。行政としてできる部分があれば支援していきたい。

参加者

長男は学校に行けなくなったのが、今では「行ってきます」と元気に学校に行っている。今5年生で、6年生も大好きで卒業してほしくないと言っている。自分が6年生になったら卒業したくないので、ずっと留年したいと言っているくらい香肌小学校が大好き。

派手ではないが自分の好きなことに挑戦する姿を見られて、親として幸せ。

私自身、普段オンラインで英語教室をしている。地域の方や子どもたちとふれあう中で、オンラインではもの足りなくなった。少ない人数だがみんなが密になっているいろんな体験をしていく中で、私自身が何かしたくなった。今月から対面で子どもたちに関わる機会ができた。

いつでも見に行ってもよいので学校の様子を見てみると、先生方がすごく楽しそうで、子どもたちをしっかりと見てくれている。子どもたち一人ひとりの良さが発揮できている。香肌小学校のことを松阪市内にみえる先生も含めて、もっと皆さんに知ってほしい。

教育長

初任者の先生の研修を香肌小でしたらいいかなと思った。先生方にも感謝申し上げる。

参加者

もともとの地元の人間。波瀬小学校がなくなって香肌小学校になった。仕方がないと思う。香肌小学校が残っていて、皆さんが来てくれた。皆さんが来ていただかなかっただら、うちの子は1人2人で小学校に行かなければならなかった。そんな学校を残すことを検討いただいたことに感謝している。

コスト面から考えると統合もあると思われるかもしれないが、皆さんのお気持ちを分かっていたらありがたい。何年かたったらまた学校再編の話がでてくることになると思うが、そのような思いがあるということだけ覚えておいていただきたい。

参加者

4年前に引っ越してきた。オープンスクールで感動した。●●の人の多い住宅街に住んでいたが、この地区の雄大な景色、保護者や学校のあたたかさを感じた。前の学校では懇談会でも成績とか数値で測れることばかりだった。子どもの情操教育としてどうなのかと思っていた時にこの学校に出会って感動した。

オープンスクールの1か月後には家を決めてこちらに住んでいた。4、5年たつが、本当にこちらに来てよかったと思っている。

今、非認知能力が大事と言われている。テストでは測れないことが都会ではなかなか育ちにくいと思う。ここでは人数が少ないので、一人ひとり役割分担があって責任感が育つ。日常的に上の子が下の子の面倒をみる異学年交流ができる。お兄さん、お姉さんようになりたい、という思いで自然と人間として成長できる。地域の方など親以外の大人にも育てられる。子どもが少ないので、地域からも愛される。

松阪市として、この人数の学校が存続できているのが財産だと思う。こんな素晴らしい学校を松阪市の自慢にして、発信して行ってほしい。地域の活性化という観点で移住促進として考えたときに、小規模学校を地域活性化のインフラとして投資をするべきだと思う。地域と行政が手を取って一丸となってアピールして、悩んでいる親や子どもをどんどん呼び込んでいければと思う。

教育熱心な保護者にもおすすめできる学校。学力も高い。

教育長

ここまで評価していただけているのは、先生方のおかげ。先生方のご尽力に感謝。ここに至るまで、●●さん、公民館長をはじめ、地域を主語に地域の中で取り組んでいただいたことが成功の鍵。そうい

った土台を作って地域として広げていただいたことが成功のもと。

教育委員会として、教育内容が高まるようにしっかり支援していく。

例えばクレソンを仕入れて、ふるさと納税の返礼品にする取組を行った。その時に小学校1、2年生に6年生が3桁の繰り下りの計算を教えていた。5年生の子が「このドリルをしたらできるようになるよ」と言って、2年生の子が嬉しそうにそれを持って行った。教育の根本の、必要に迫られて誰かに教えてもらってやる、もっとやりたいと思ってやる、そんな部分が見えた。先生はそれを見守り、子ども同士が粘り強く解決する。子どもは先生に見守ってもらっている安心感がある。

子どもは失敗することに意義がある。ちょっと失敗したときに誰かの支えがあつてがんばれた、誰かを支えたということが教育の中でできたらよいと思う。

香肌小学校は先生方が丁寧に見守るところは見守り、指導するところは指導している。地域がこの取組を支えていることが、ここまで来ることができた要因。

議会等で「なぜ香肌小学校を残すのか？」と必ず言われる。皆さんの言葉をしっかり伝えていく。

参加者

今4年生の娘が2年生の時に●●から引っ越してきた。●●の学校では1学年180人の学校。1年生の時に授業参観で先生の目が行き届いていない印象で、その学校には通わせたくないと思った。

移住先を探していた。香肌小の体験授業を受けたときに娘が「ここがいい」と言ったのが、ここへの移住を決めた理由。

小規模校だから先生の目も行き届いているし、複式学級だからよかった。縦のつながりも強くきょうだいのような関係。少人数だから通えた。

規定で20人以下のところは切り捨てるのではなく、小規模校も選択肢として残してほしい。こういう学校が合う子どももいる。

学校も通知表がなくなったりチャイムがなくなったり宿題がなくなったり、公立学校も変わってきている。そのような改革を香肌小はできる学校。松阪市としても次世代の教育の取組をしていただきたい。

教育長

体験を通して自ら課題解決を導き出す取組は、まさに松阪市がめざしている教育。さらに進めていきたい。

ただ、20人未満の学校を全て残すわけではない。教育内容による。教育委員会が決めるのではない。ここのような教育を地域と一緒にやっているから、ここの教育を限定的ではあるが残す。今のような教育が担保できなくなったら再度検討が必要になる。「こうあらねばならない」というものはない。松阪市の最低限確保したい20人という基準はみんなと一緒に探してあてた。

こういう教育が新しい教育につながっていく。新しい学習指導要領では、探究的な学習、自己調整学習がメインになってきている。そういう意味では先進的。

教育委員会としては、その学校でやっている教育をしっかり支援したい。しかし、このままではいけないという学校は変えていく。学校の再編活性化は、それぞれの地域に入って意見を聴いた上で、判断をさせていただいている。「こうあらねばならない」ではなく、子どもたちの顔を見ながら、地域の状況を見ながら判断をしていく。

先生方をはじめ、地域の方々、それを支えていただいた方々に感謝申し上げる。教育委員会も一緒に

汗をかく。今後ともご意見を遠慮なく言っていただきたい。

学校長

今まで以上に学校はがんばっていきたい。これからもよろしくお願いいたします。

連絡：学校活性化推進室長

本日、再編活性化の方向性についてご説明をさせていただきました。説明の中で最終案と申し上げました。その上で皆さんのご意見をちょうだいして最終決定をさせていただく流れになっております。

本日、特に反対のご意見も出てこなかったという認識のもとで、次の松阪市教育委員会定例会で議案として出させていただいた上で決定という手続きを踏ませていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。